

# 自由のともび

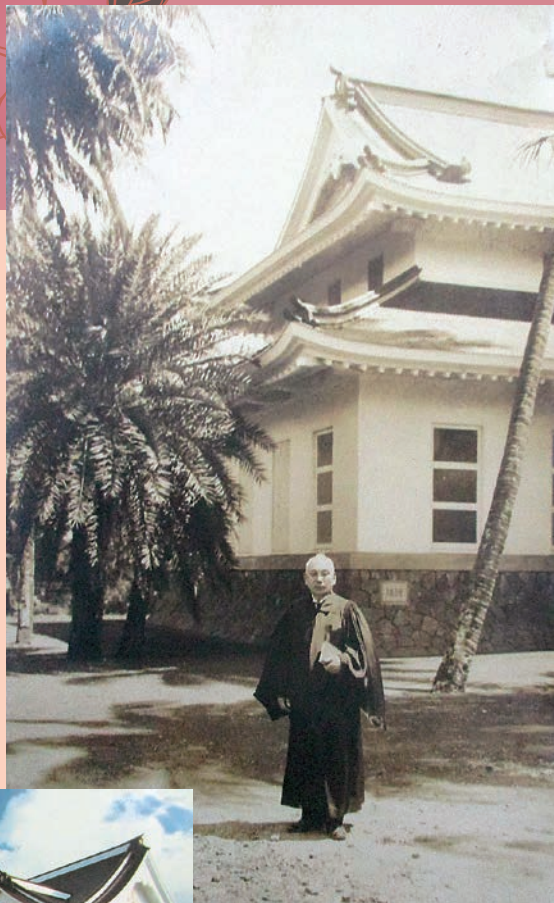
JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 90

2021 March



高知殖民会規約

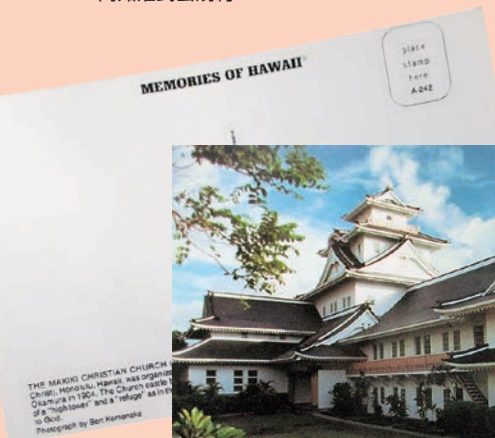


奥村多喜衛写真



森小弁葉書

■リレーエッセイによせて  
—自由民権記念館所蔵  
移民関係資料—



マキキ教会ポストカード

- 企画展「言葉をつくった時代」
- 学校連携事業報告
- 高知市立自由民権記念館開館30周年記念式典報告
- 第21回社会科自由研究作品展報告
- 資料紹介「細川雅書簡 細川義方宛」

## 移民と民権

■リレーエッセイ

移民受け入れが議論される現代日本に暮らしているといふ忘れてしまひ、そうになるが、明治以降、移民として日本人が海外のあちこちに出かけた時代が長くあった。高知からも多くの移民が出た。全国的にみれば特別に数が多いというわけではないが、移民事業の推進者、移民先の日本人コミュニティのリーダー、移民会社の経営者などの輩出率が高いという特徴がある。

そうした人物の履歴をたどっていくと、ひとつの共通点が見えてくる。自由民権運動との関わりである。大物もいれば、運動に触れただけで離脱した者もあるが、北海道の坂本直寛、ハワイの奥村多喜衛、アメリカ・ブラジルの西原清東、ブラジルの水野龍、トラック島の森小弁など、いくらかでも指を折ることができる。

自由民権運動は、理想の共同体を目指した運動でもあったと思う。少なくとも、そうした気持ちをもって参加した青年たちはいたのではないか。しかしそんなものはそう簡単には実現しない。たちまち現実主義者たちの手で新しい秩序を整えていく明治に、うまく乗れる者もあれば、そうはいかない者もあっただろう。

実現できなかった理想の共同体を、新しい土地に自分の手でつくり出そうという動機が、先頭に立って移民にかかわった人物にはあったのではないかと私は感じている。自由民権運動と移民の関係を、そうした視点から説明することはできそうだ。

運動は収束しても、運動にかかわった人びとの中で消えずに残ったともしびの行方は、これからも自由民権運動研究のテーマになるだろう。そこでは自由民権記念館による、幅広い収集史料が貴重な資源となる。



# 言葉をつくった時代

◆期間 二〇二二(令和三)年四月二十九日(木)

～二〇二三(令和四)年三月二十七日(日)

◆会場 二階 特別展示室

常設展企画展共通観覧券が必要

日本語は歴史上で三度、大きく変化し  
たと言われています。一度目は中国から  
の漢字の導入。二度目は平安時代、仮名  
文字の成立。そして三度目、前者二つと  
並んで挙げられるのが明治時代に言文一  
致体がつくられたことです。

言文一致体とは「話すように書く」こと  
を指した新しい文体でした。当時日本  
では話し言葉と書き言葉とが大きく乖離  
していたため、日本語を話すことはでき

ても、読み書きが十分には出来ない人々  
が多くなりました。そうした状況から、明  
治における「言葉」の大変革は生まれま  
す。

この変革の原動力は、当時の人々が抱  
えた「自由に書きたい」という思いでし  
た。自由には大きく分けて二つの意味が  
あります。「責任をもって何かを行う際  
に障害がないこと」として「心のまま、思  
う通りであること」です。「言葉」はまさ

にこの二つの「自由」を求める運動の中で  
つくられました。

運動の一つ目は、自由民権運動です。  
民権家たちが目指したのは権利としての  
「自由」を備えた近代国家の成立でした。  
その実現には、政治に関心を持つ国民の  
存在が不可欠だったのです。

しかし、民権家の多くは士族出身の知  
識人。彼らが書き言葉として教わってき  
た漢文体は、読解に高水準の教育を必要  
とします。漢文体でいくら呼び掛けても、  
その言葉を理解できない一般の人々は振  
り向いてくれません。また、多くの人は  
政治に関心さえ持っていないませんでした。  
そこで、民権家たちは一般の人々に接近  
する形で運動を展開していきます。民権  
歌謡や政治小説がその代表でしょう。民  
権家たちは新しい思想を伝えるために庶  
民的な文化や言葉をも取り入れていった  
のです。こうした取組が、日本の近代文  
学に与えた影響は計り知れません。その  
波は、自由民権運動の衰退後も確かに日  
本の「言葉」を動かしていきました。

二つ目の運動は、言文一致運動です。  
これは、主に明治の小説家たちによって  
行われました。彼らは新しい思想を描く  
には新しい言葉が必要だと考え、思うま  
ま、感じるままを書き表すことのできる  
「自由」な言葉を模索します。その結果成  
立したのが言文一致体でした。現在、私  
たちが話したり書いたりしている「言葉」

## ギャラリートーク

担当学芸員による展示解説を  
行います。

- ◆2021(令和3)年 5月2日(日)、  
7月24日(土)、11月3日(水・祝)、  
2022(令和4)年 2月12日(土)
- ◆各回 午後1時30分～(30分程度)

\*申込不要(常設展企画展共通観覧  
券をお買い求めの上、直接会場に  
お越しください)



[右] 『小説神髓』  
(高知市立市民図書館蔵・近森文庫)  
[左] 『当世書生気質』  
(高知市立市民図書館蔵・近森文庫)



『私の見た明治文壇』  
(当館蔵)

『東京日々新聞』  
(当館蔵)



『板垣君近世記聞』  
(当館蔵)



『自由乃凱歌』  
(佐川町立  
青山文庫蔵)



# 小学生

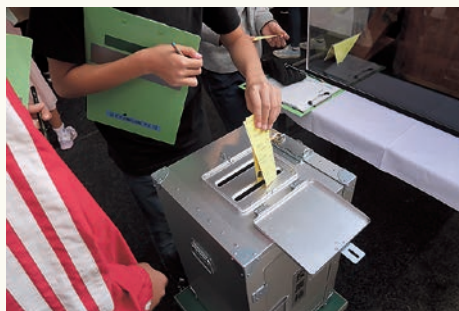
meets

# 自由民権運動

当館では高知市内の小中学生に、自由民権運動や高知市の近代史について興味・関心を持ってもらうため、様々な学校連携事業を行っています。令和二年度の事例を二つ、報告します。

## ●企画展関連コーナー……「選挙を体験してみよう！」

令和二年秋に開催した企画展「民権はあさんと女性参政権」では、選挙権を持たない子どもたちにも選挙を体験してほしいとの思いから、関連企画として、模擬投票コーナー「選挙を体験してみよう！」を設け



ました。板垣退助・植木枝盛・中江兆民・楠瀬喜多の四名の候補者のうち、教科書に載せたいと思う人物に投票するものです。高知市選挙管理委員会協力により、実

際の選挙で使われている投票箱と記載台を設置したほか、候補者選びの材料となる選挙公報やポスターも作成、掲示するなど、実際の選挙さながらの体験コーナーが実現しました。

展示期間中に社会科見学で来館した小学生には全員に投票を体験してもらいました。投票した子どもたちからは、「候補者選びが難しかった」「家族に連れられて投票会場に行ったことを思い出した」「ポスターの笑顔で決めてしまいたいようになった」など、様々な感想が聞かれました。選挙を体験することで、選挙権についてより深く理解してもらえたと思います。

## ●出前授業……

平成三〇年度より、市内に通学する全ての小学六年生に配布している学習用教材『板垣退助ブック』以下『ブック』。昨年度、この『ブック』をきっかけに出前授業を行った高知市立昭和小学校から、今年度も出前授業の依頼をいただき、令和二年十一月、学芸員が、六年生全三クラスのもとに伺いました。



昨年度に引き続き「新聞の葬式」についての授業とのことでしたが、今年度は特に「なぜ新聞の葬式をしてまで政府に抵抗したのかを考える」という内容でした。子どもたちは、新聞の葬式の様子が描かれた絵を見ながら、「どうして人じゃなくて新聞の葬式なの？」「棺の中には新聞が入っちゃうの？」など、素朴な疑問を言葉にしなが、新聞の葬式に関わった人々の思いを想像していきま

す。学芸員は、授業の最後にゲストティーチャーとしてお話をしました。まず、明治政府による弾圧について、演説会に参加した学生が罰金刑となったことなど、実際の事例を紹介。そして、こうした厳

しい取締りに対して、民権派の人々が行った運動の工夫をお伝えしました。中でも、演説会中に解散を命じられた参加者が一旦解散した後、すぐに会場に戻って懇親会を開いた、というエピソードには、子どもたちは「何それ！ そんながあり？」と笑顔を見せてくれました。

今後も当館を様々な形で活用いただけるような取組を進めていきます。

## ◆ 展示解説・体験メニューの御案内 ◆

社会科見学や遠足等で来館いただいた児童・生徒の皆さんに、学芸員や解説担当者による展示解説を行っています。また、楽しみながら近代や自由民権運動の歴史を学べる体験メニューを用意しています。希望の方は、お気軽に当館までお問い合わせください。

- 常設展示解説 (1時間程度/ワークシートあり)
- 企画展示解説 (30分～1時間程度/開催期間のみ)
- DVD「自由民権運動って何?!」鑑賞 (15分程度/子ども対象)
- 大型パズル (当館所蔵の古地図・錦絵などをパズルにしたもの)
- すぐろく体験 (自由民権運動についての近代のすぐろく)



# 高知市立自由民権記念館 開館三〇周年記念式典

当館は二〇二〇(令和二)年度に開館三〇周年を迎えました。これを記念し、式典を行いましたので、その様子を御報告します。

日時 二〇二〇(令和二)年 一〇月一〇日 土

会場 当館一階民権ホール・自由ギャラリー

開場

◆ 式辞 (高知市長 岡崎誠也)

◆ 祝辞 (高知市立自由民権記念館友の会会長 岡林登志郎 / 代読 友の会事務局長 尾崎香)

◆ 劇団「笛の会」によるアトラクション  
「自由民権運動大演説会」

◆ 企画展オープニングセレモニー テープカット

一〇時四五分 / 一一時三〇分(二回)

◆ 担当学芸員によるギャラリートーク

一一時三〇分

◆ 自由民権記念館友の会主催「県詞の日」記念講演会

講師：新井 勝紘氏(全国みんけん連顧問・元専修大学教授)

演題：自由民権期の憲法草案に、いま学ぶこと

―「五日市憲法」発見五〇年をふりかえりながら―



式辞

岡崎誠也高知市長



祝辞

高知市立自由民権  
記念館友の会  
岡林登志郎会長  
(代読：尾崎香)



自由民権運動  
大演説会

劇団「笛の会」



テープカット





開館30周年記念企画展 楠瀬喜多没後100年「民権ばあさんと女性参政権」



### ギャラリー トーク

オープニングセレモニー後のギャラリートークには、およそ30名の方に参加いただきました。皆さん大変熱心に聞いてくださり、終了後には多くの意見や質問が寄せられました。

### 「県詞の日」記念講演会



新井氏が、土蔵にあった自由民権期の憲法草案「五日市憲法」を初めて手にしてから50年。その調査・研究を振り返るお話をいただきました。詳細は友の会発行「民権の炎」No.62に掲載しています。

### 記念 講演会

高知市立自由民権記念館開館30周年記念企画展  
楠瀬喜多没後100年「民権ばあさんと女性参政権」記念講演会  
及び第102回高知近代史研究会報告

## 「幕末維新と楠瀬喜多」

講師：中脇 初枝氏（作家）  
公文 豪氏（土佐史談会副会長）

日本で初めて女戸主の選挙権を訴えた女性、楠瀬喜多の没後100年を記念し開催した企画展「民権ばあさんと女性参政権」では、女性参政権獲得までの歴史を御紹介しました。さらに、喜多の命日である10月18日（日）には、作家の中脇初枝氏、土佐史談会副会長の公文豪氏をお迎えして記念講演会を行い、83名の方に参加いただきました。

中脇氏は現在、喜多についての小説を執筆中で、綿密な調査を進められています。今回の講演会では、その貴重な成果から、知られざる喜多の一面を紹介いただきました。また、ジェンダーギャップ指数など現代のデータも併せて紹介され、「女性の政治参加は現代の課題である」と述べられていたことが印象的でした。

『板垣退助伝記資料集』（当館発行）の編集に多大なる御尽力をいただいている公文氏からは、同資料集の内容から、女性の帝国議会傍聴が可能となった背景について、女性民権家・清水豊子と板垣退助のやり取りなどのお話がありました。



### ◆参加者からの感想

「自由や権利の思想の流れを、女性を中心とした視点で考えるきっかけになった」

「喜多の新たな一面を知ることができた」



【期間】 令和3年1月23日(土)～2月28日(日)

【共催】 高知市教育研究会社会科部会

当館マスコット  
キャラクター  
「じゅっぴー」



この作品展は、当館開館一〇周年を記念して始まり、今年で二二回目となります。今回も「歴史」「人物」「地理・文化」など全八分野に数々の力作が出品されました。

応募点数は、小学校二四校、中学校一校から、合計八〇点。新型コロナウイルスの影響で夏休みが短縮されたこともあり、作品数は例年より少なめでしたが、見ごたえのある作品が集まりました。その中から一〇点を自由民権記念館特別賞に選びました。

二月一三日(土)には表彰式を開催し、自由民権記念館特別賞受賞者やその家族の方に参加いただきました。

展示会場で実施したアンケートでは、「小学生・中学生が興味を持ったことを調査し、まとめあげたが、んばりを感じられました」「いろいろな気づきがあり、時間をかけて丁寧に調べていて感心しました」などの御感想をいただきました。

なお、期間中は約六〇〇名の方に観覧いただきました。どうもありがとうございました。



会場入口



表彰式

## 第21回社会科自由研究作品展 自由民権記念館特別賞受賞作品

分野	学校	学年	氏名	作品名	講評
人物	鴨田小学校	6	筒井ひかり	高知県の銅像を巡って来ました	高知県はたくさんの偉人を輩出しています。その中でどんな人物が銅像になっているのか、銅像がどこにあるのか、その着眼点が良いですね。さらに、調べるだけでなく、クラスの人がどれだけ知っているのか、アンケートを取るという着眼点もすばらしいです。とても良い作品です。
総合	鴨田小学校	6	森本 真由	絶対コロナに負けない～ほくたちにできること～	自分の考えを大切にしています。新型コロナウイルスについてまず調べ、身近で取り組んでいる施設に足を運び調査をしています。調査結果を見て、自分で分析しているところがすばらしいです。
歴史	高知大学教育学部附属小学校	2	溝渕 喜子	十二神将しらべ	仏像に興味をもち、本をいくつか読む中で、「あれっ?変だな?」と思ったことを見つければ別の本で調べています。そして、最終的には、発行元に連絡をして、見事に本の間違いを指摘しました。問いを持ち、たくさんの情報を比較して学ぶ姿勢は、立派です。
歴史	高知小学校	3	笹本 果暖	近所のしせきめぐり	自分の家の近くの史跡に興味を持ち、実際に行き、その場所の説明を自分の言葉でまとめています。そして、高知の近代化の様子について、気が付くことができました。これからも、ぜひ、調べ学習を続けてください。
環境	秦小学校	5	栗下 毅士	高知の海のプラスチックゴミ調査	身近なゴミに注目し、実際に海岸での調査を行っています。この研究を通して、ゴミに対する意識が高まったことと思います。さらに、自分や家族で考えたことを、周りの人にも広げていってください。
体験	秦小学校	1	小松 美結	あしずりみさきにいったよ	足摺の魅力について、写真や資料を用いて、効果的にまとめられています。実際に行き経験したことで、説得力のある内容に感じました。これからも、様々なところを訪れて、感じた地域の魅力を深めていってください。
産業・交通	一ツ橋小学校	3	植村 亮文	お母さんのすきなお店はどこか?～お店を調べてくらべてみる～	身近なことを題材にし、お母さんがなぜいろんな店で買い物をするのかという着眼点が良いですね。どこかのデータを持ってくるのではなく、どの店も自分で足を運んで分析しています。「予想」→「調査」→「考察」→「疑問」と思考がつながっているのがいいです。必ず最後に振り返り、次にやりたいことを書くなどよく探求ができていると思います。
産業・交通	はりまや橋小学校	5	岡林 修司	高知県の道の駅調べ	コロナ禍の中、24か所の高知県の道の駅を訪れ、働いている人の苦労やおすすめの商品などを調べています。それぞれの道の駅の工夫や様子が写真などでよく分かりました。
地理・文化	横内小学校	2	茶畑 咲衣	世界の国旗調べ	おもしろい形や模様など2年生らしい興味で研究をはじめ、さえさんが、どこの国の国旗を調べるのかわくわくしながら見せてもらいました。また、地域によって色や模様の共通点があることや、きまった地域に入っていない国など新しい発見もできています。大人になったら、パーレンに行き、国の大きさを実際に確認する夢がかなうといいですね。
地域・福祉	横浜新町小学校	4	有光 彩瑛	人口減少社会に負けない～みませ地区の活性化～	高知県の人口減少化に目を向け、市内で実際に廃校となった地域へ出かけ、自分で歩いて調べたことが、よく分かります。調べた結果から、地域の活性化のためのアイデアを考えていることも、地域への愛着をとて感じることができました。



◆ 細川雅書簡

細川義方宛

当館では、高知県吾川郡秋山村(現在の高知市春野町秋山)出身の民権家・細川義昌よしまさの家に伝わる資料をお預かりしています。中でも注目したいのは、細川家の女性に関する資料です。書簡や日記、家計簿、詳細なメモに至るまで、明治期の女性の生活を知る手がかりとなる、貴重な資料が多くあります。

今回はその中から、明治三十七年一月二二日、義昌の次女・雅が夫の細川義方よし方に宛てた書簡を紹介します。義方は義昌の弟・義徳の長男で、本家細川家と養子縁組をし、義昌の婿養子となった人物です。

義昌の母・梶かじが丹念に綴った日記『おぼへ帳』によると、雅と義方は、明治三十七年七月二七日に「結婚の式」を挙げました。そしてその秋、義方は東京帝国大学法学科へ入学。夫妻は、東京と高知でそれぞれ暮らすことになりました。そのため細川家には、二人が近況を報告しあう内容の書簡が伝わっています。

本書簡は、それらの中でも特に長文です。義方と同じように大学に進学して学問を極めるか、資格を取って将来に備えるか、夫に真剣に相談する内容です。雅にとっては相当重要な決

断だったのでしょうか。

序盤の「大学を卒業せしとて格別に交際社会に出でらるる」ということも無しよう」という一文からは、学問をした女性であっても、社会進出は変わらず難しかったという実情が伺えます。また、「交際社会に名を得るが為に大学へ入る」のは本末転倒であるし、大学を卒業しても「交際の上」に実力なし」ならば、それは「無益」だと述べています。進学はあくまで手段で、何より社会に出て活躍したいという雅の思いが感じられます。

そして雅は、大学に進み学問を極めることは「永き年月を要する故に之を致しとげる事はできないので、「今できる中に少しでも資格をこしらへて置き」たい、と打ち明けます。夫への気遣いはもちろん、育児や介護、それに係る経済的な問題など、家族の将来を見据えてのことでしょう。

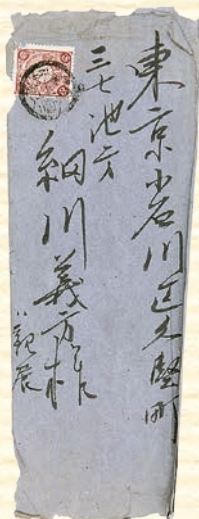
義昌の孫であり、雅の姪にあたる中沢静氏は、雅の人柄について「物事に控え目」でいながら「絶えず前進を求めて止まない人であった」と紹介しています。そんな雅は、この進学の問題をどう決断したのでしょうか。

本書簡に対する義方の返信は見つかっていませんが、二か月後に義昌が

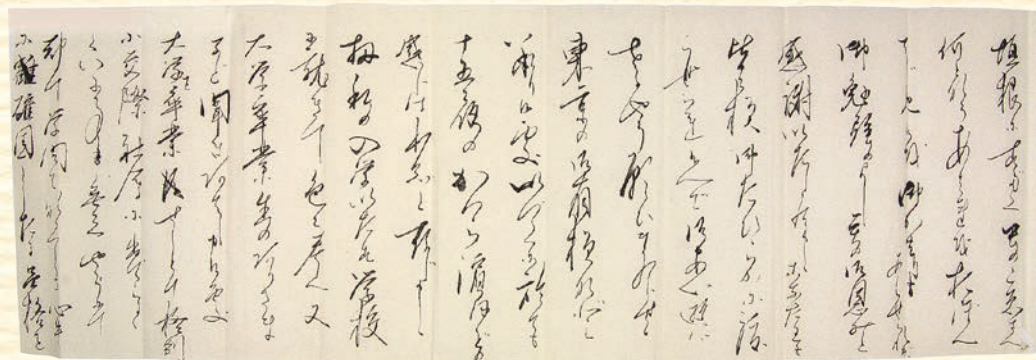
義方に宛てた書簡では、雅がフェリス和英女学校英語師範科への進学を「切二希望」している、と書かれています。義昌によると、学科は三年で卒業でき、高等女学校英語科の教員資格を得得できる予定とのこと。雅は、資格取得の道を選択しようです。

妻が夫に進学の相談をする——當時にしてはめずらしい事例でしょう。雅の場合は、他家に嫁する形の結婚でなかったこと、そして夫の義方も当時学生であったことも関係しているでしょうが、義昌、義方を含む周囲が日頃から雅の意思決定を尊重したからこそ、こうした相談がなされたのではないかと思えます。

なお、雅は翌年四月、希望通りフェリス和英女学校英語師範科に入学し、無事三年後卒業しています。



雅書簡封



雅書簡(部分)



## 出版物のお知らせ

開館30周年記念出版

『板垣退助伝記資料集』第1巻～第6巻 販売中

郷土の偉人であり、自由民権運動の指導者である板垣退助に関係する重要な史料をほぼ網羅した資料集です。開館30周年を記念して3年間で全18巻を刊行する予定となっています。現在、第1巻(幕末篇)から第6巻(明治20年)までを販売中です。

6巻1セット18,000円(税込)。購入・お問合せは民権・文化財課(Tel: 088-832-7277)まで。

## 「選挙を体験してみよう!」結果発表

高知市立自由民権記念館開館30周年記念企画展 楠瀬喜多没後100年「民権ばあさんと女性参政権」に併せて当館自由ギャラリー前にて高知市選挙管理委員会の協力により、模擬投票体験コーナー「選挙を体験してみよう!」を実施しました。その開票結果をお知らせします。



- 投票テーマ/「教科書にのせたい! 自由民権運動で活躍した高知の偉人」
- 来館者数/1,220人 楠瀬 喜多…259票 植木 枝盛…214票  
板垣 退助…173票 中江 兆民…63票
- 有効投票総数/709票 ●無効投票総数/40票
- 投票率/61.39%

皆様投票ありがとうございました。

## 第2展示室 ミニ企画展開催のお知らせ

5月上旬まで、「憲法発布と錦絵」と題して、明治22年の大日本帝国憲法発布の様子や、当時の国会議事堂を描いた錦絵を展示しています。当時の祝賀ムードを描いた、色鮮やかな錦絵を観覧いただけます。

## 板垣退助墓所の専用駐車場が完成します

板垣退助の墓(分祀)が高知市の薊野地区にあることを知っていますか? 高知市では、墓所を訪れる方々に利用していただくための専用駐車場の整備を進めています。駐車場内には、市内の板垣退助ゆかりの場所を周遊できるよう、民権史跡の周遊案内看板を設置します。

高知が誇る偉人に思いを馳せる場所として、多くの皆様のお越しをお待ちしております。

(高知市観光振興課)

- ◆駐車場整備場所: 高知市薊野東町15-12地先(墓所より徒歩約2分)
- ◆完成予定時期: 令和3年3月末
- ※墓参以外を目的とした駐停車はご遠慮ください。



## 行事予定 (春・夏)

4月29日(木・祝)～2022(令和4)年3月27日(日)

### 企画展

「言葉をつくった時代」

会場: 2階特別展示室

※常設展・企画展共通観覧券が必要

※5月2日(日)、7月24日(土)にはそれぞれ13時30分から担当学芸員によるギャラリートークを行います。

4月29日(木・祝) 15:10～17:00

申込不要

### ◆自由民権記念館友の会総会・記念講演会

「細川家の女性たち」

講師: 濱田実侑(自由民権記念館学芸員)

会場: 1階民権ホール

※13:30～15:00 友の会総会

5月22日(土) 15:00～17:00

申込不要

### ■高知近代史研究会第105回研究会・総会

「ハワイの高知城 マキキ聖城基督教会の遺産」

講師: 中川美佐氏(高知大学非常勤講師・奥村多喜衛協会代表)

会場: 1階民権ホール

7月下旬予定

### ■夏休み子ども歴史教室

小中学生が、館内で自由民権運動に関するクイズラリーに挑戦

※学校を通じて申込受付

8月21日(土) 14:00～16:00

申込不要

### ■企画展「言葉をつくった時代」記念講演会

高知近代史研究会第106回研究会

「近代文学のあけぼの」

講師: 川島禎子氏(高知県立文学館主任学芸員)

会場: 1階民権ホール

※講演会では高知県立文学館カルチャーサポーター山崎まり氏による宮崎夢柳『自由乃凱歌』の朗読を行います。

